

1. 評価結果概要表

作成日 2010年2月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2670600416
法人名	ヤマト株式会社
事業所名	グループホーム ニングルの森北白川
所在地	〒606-8406 京都市左京区浄土寺石橋町69 (電話) 075-762-0920

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成22年1月26日	評価確定日	平成22年2月19日

【情報提供票より】(平成22年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての 1~2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6万 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有()	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(12万円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	270 円	昼食 500 円
	夕食	700 円	おやつ 200 円
	または 1日あたり 1670円		

(4) 利用者の概要(1 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 テイ医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

観光客の多い銀閣寺近くの古くからの住宅地という京都らしい地域にある。利用者に地域住民としての暮らしをしてほしいと哲学の道の掃除、近くのスーパーや市場への買い物、喫茶店や飲食店の利用などを支援している。地域との交流も進み、クリスマス会に町内の一家が参加している。家族には毎月写真入りの近況報告を送付し、年4回の行事に招待し、大勢の参加を得ている。敬老会は家族が利用者へ感謝の手紙を朗読するので、感動の場面が生まれる。昨年8月新しい管理者を迎え、職員体制が落ち着き、会議や研修を充実させ、職員同士の関係が改善され、職員は明るく、意欲的になっている。女子寮の改築のため生活空間は各階にあり、エレベーターはないという困難な条件を介護力で乗り越えようという意欲がうかがえる。社長だった男性利用者はスーツを着て喫茶店へコーヒーを飲みにつれて行く、職員が利用者からピアノを習う、日舞の師匠という利用者にイベントで披露してもらい、初詣は山王神社に行きたいという利用者を個別につれて行く、利用者が昔よくつくっていたおやつと一緒に手作りする等々、個性の強い利用者がその人らしい暮らしができるよう支援している。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の評価結果を職員が読んで、改善にむけて取り組んでいる。①ホームの玄関の施錠をはずし、一方居室やトイレの鍵の整備、②職員の研修の充実、③入浴介助の改善、④地域との交流の充実、④職員会議の回数を増やし、職員が全員で運営に参加等の改善が図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価受審にあたり、自己評価は管理者とケアマネジャーがまとめ、職員に配布している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。ホームからは利用者の日常を丁寧に報告しているので、メンバーに認知症理解を図る結果となっている。ホームの行事にもメンバーに参加してもらい、「体を動かす行事もいいのでは」という意見により、利用者に日舞の師匠がいるので、日舞の会を開催している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>雛祭り、母の日、敬老会、クリスマス会の行事に家族を招待しており、毎回大勢の参加がある。家族は積極的に参加しており、乾杯の音頭をとったり、歌を披露したりしている。敬老の日には家族から利用者へ手紙を書いてきて読んでもらっており、毎回感動的な場面となる。運営についての家族の意見は「行事の開始時間を守ってほしい」という点である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者は利用者に地域住民としての生活を送ってほしいという願いを強くもっており、町内会に加入し、会費を納入している。町内会の総会に場所を提供し、行事には積極的に参加している。毎週哲学の道を掃除し、その際に挨拶を交わしたり、会話したりして、近所の人との交流を図っている。ホームのクリスマス会は町内の家族の参加があり、日頃の成果を感じている。今後もさらなる地域貢献を目指している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、ホーム独自の理念をつくりあげている	開設以来、「自然・地域と統合した人間としての幸せな生活」という法人の理念があり、ホームもこれをもとに運営している。ホームの玄関に掲げ、パンフレットに明記している。家族には契約のときに説明し、運営推進会議でもメンバーに啓発している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やカンファレンス会議等で常に理念に立ち返った話を繰り返しており、職員は理解を深めている。特に地域との関係について試行錯誤しており、地域情報を集める担当者を決めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい ホームは孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、会費を納入している。町内会の総会に場所を提供し、行事には積極的に参加している。毎週哲学の道を掃除し、その際に挨拶を交わしたり、会話したりして、近所の人との交流を図っている。ホームのクリスマス会は町内の家族の参加があり、日頃の成果を感じている。今後も更なる地域貢献を目指している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価受審にあたり、自己評価は管理者とケアマネジャーがまとめ、職員に配布している。昨年の評価結果を職員が読んで、改善にむけて取り組んでいる。①ホームの玄関の施錠をはずし、一方居室やトイレの鍵の整備、②職員の研修の充実、③入浴介助の改善、④地域との交流の充実、④職員会議の回数を増やし、職員が全員で運営に参加する等の改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。ホームからは利用者の日常を丁寧に報告している。ホームの行事にもメンバーに参加してもらい、「体を動かす行事もいいのでは」という意見により、利用者には日舞の師匠がいるので、日舞の会を開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 ホームは、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	左京区事業所連絡会が行政の参加のもと毎月開催され、情報交換と共に研修が実施されており、管理者が参加している。また地域密着型事業所同士の交流のために白川ブロック会議が3カ月ごとに開催され、管理者や職員が参加している。「高齢者にやさしい店」事業としてワッペンを店頭に貼ったり、認知症サポーター研修の実施、虐待の取組などが行われている。		
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は多く、多い人は毎週、少ない人でも衣替えは家族に依頼しているので季節ごとに来訪され、その際に情報交換している。毎月職員が利用者の写真も入れて「近況報告」を書き、郵送しており、家族に好評である。毎月発行している広報誌は担当職員がつくっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	雛祭り、母の日、敬老会、クリスマス会の行事に家族を招待しており、毎回大勢の参加がある。家族は積極的に参加しており、乾杯の音頭をとったり、歌を披露したりしている。敬老の日は家族から利用者への手紙を朗読するので、毎回感動的な場面となる。運営についての家族の意見は「行事の開始時間を守ってほしい」という点である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年前半は法人が新事業所を立ち上げ、職員異動があったこと、また退職者もでて、利用者や家族が不安に思った時期があった。昨年の秋以降は職員は落ち着いて勤務しており、チームワークも生まれている。管理者は年に、1,2回職員と個人面談し、ストレスの解消に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は研修に力を入れており、研修計画のもと実施している。認知症、パーソンセンタードケア、感染症、接遇などのテーマで行われている。外部研修にも参加しており、報告書を作成、伝達研修を実施している。資格取得のためには勉強会で支援している。一人ひとりの職員に自己評価を記入してもらい、それをもとに管理者と面談し、目標を定めて研鑽するように支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は外部のホームとの交流の機会が多いが、職員は他のグループホームを知らない人が多い。	○	他のグループホームの見学や交換研修の機会を設け、職員には他のグループホームを見ることにより、さまざまなことを学ぶことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しい利用者には早く馴染んでもらうように工夫している。居間にいて、みんなと話をしている利用者は早く馴染むが、「部屋に入ってしまう人は馴染むのが遅いので、なるべく居間に連れ出すようにして、寄り添って話を聞く。利用開始時には家族にもなるべく面会に来てもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から学ぶことは多い。調理の際の味付けを始め、昔の時代や生き方を学んでいる。ピアノを初歩から教えてもらった職員もいる。1人の利用者が亡くなったときには利用者も職員も共に涙が溢れた。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に利用者と家族に訪訪してもらい、種々の情報を入手し、ケアマネジャーがセンター方式でアセスメントしている。機織の仕事をしてきた、社交ダンスが趣味など、生活歴の情報もとっている。ホームでの生活について、「家に帰っても一人でさびしい。ここは人がいるから、みんなと楽しく過ごしたい。病院はかなん」等、利用者本人の言葉でニーズが書かれている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回の介護計画はケアマネジャーが仮の計画として作成し、入居後1か月くらいに職員の意見をふまえて確定の介護計画を作成している。介護計画はプラス志向で個別具体的に立てられている。着物や草履の生活をしてきた利用者、きれいなものを着たい、社交ダンスが好き、水彩画やピアノが趣味、英会話が堪能など、利用者は個性があり、その情報を収集しているため、さらにレベルの高い介護計画が期待される。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者のケース記録は毎頁に介護計画が明記され、時間軸にしたがって介護計画の実施の欄、その際の職員の気付き、利用者の発言などの欄がある書式を作成し、記入している。その記録をたどれば、介護計画のモニタリングにつながる書式である。ただ、職員の気付き欄の記入が不十分である。モニタリングは毎月実施しているが簡単な記録にとどまっている。カンファレンス会議は実施され、利用者の状況を話し合っているが、記録は結論のみである。	○	ケース記録の書式は優れており、今後は職員が介護計画に焦点をあてて記入すること、モニタリングは「介護計画を実施したかどうか」、「目標を達成したかどうか」、「その結果介護計画が継続か、終了か、見直しか」の項目で行うことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性と生かした柔軟な支援(ホーム及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○ホームの多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理容、美容は訪問してくれるので、それを利用している。近くに地藏堂があり、毎日のようにお参りに行ったり、哲学の道の掃除を毎週実施したり、近くの喫茶店に毎日のようにコーヒーを飲みに行ったり、地域の資源を活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医とホームの関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ももとのかかりつけ医への受診は家族が同行している。ホームで把握している情報を書面に出している。退院時には看護サマリーを入手している。協力医は月2回、検診も含めて往診してくれている。歯科医は近いので受診に同行している。認知症専門医とも相談できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化やターミナルケアに関して、指針とマニュアルを作成しており、利用者や家族の意向にしたがって、対応することを明記している。また病院や自宅へ搬送した場合にも十分な引継ぎを行い、継続的に支援することとしている。この指針をもとに利用者や家族の意向を確認しているが、最期まで見てほしいという希望が多い。これまでにターミナルケアを経験した職員も多く、医師と看護師の協力体制もある。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室もトイレも中から鍵をかけることができる。トイレ誘導などの声かけは十分注意し、職員への指導も行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその日課はあるが、毎日の生活は利用者のペースである。朝起きてこない人は食事をとっておく。入浴も午前も午後も含めて利用者が入りたいときに支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士がたてた献立を利用して食材の買い物に行き、職員と利用者が調理している。和風の季節感のある献立である。利用者の希望によっては献立を変更することもある。ご飯や味噌汁は利用者が自分の分は自分でよそっている。食卓には一輪挿しに花を生け、職員も一緒に会話しながら、楽しい食事風景である。餃子をつくってホットプレートで焼くこともある。かに道楽や回転寿司に外食にも出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は地階にあり、階段の昇降がたいへんなので、毎日や夜間の入浴は実施していない。週3回の入浴で、マンツーマンで職員がお誘いして入浴介助、更衣して部屋にお連れしている。広い浴槽なので、ときには仲良しの利用者が一緒に入ることもできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	哲学の道の掃除、自分の部屋の掃除、花の水遣り、洗濯物たたみ、食器洗いなど、利用者は役割りを果たしている。塗り絵、歌、お絵かき、おじゃみ、カルタ、トランプ、室内ボウリングや卓球などを楽しんでいる。お正月には大きな紙に一人ひとりが「元気」「根性」「結婚」など、抱負を書いた。		
25	61	○日常的な外出支援 ホームの中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には近くのスーパーや市場に買い物に、喫茶店にコーヒーを飲み、お地藏さんにお参りに等、出かけている。花見、勸修寺観光農園での芋ほり、北野天満宮での紅葉狩り、蔵林寺の大根炊き、初詣など、季節のお出かけもしている。亡夫の会社や自分の働いていた会社などへの個別外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	表玄関、裏口は日中施錠していない。非常災害時に廊下から外部へ出る扉も施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については防火管理者、消防計画等を含めて完備している。スプリンクラーは設置予定である。食料、医薬品等の備蓄を備えている。夜間想定も含めて避難訓練を実施している。防災協定書にはいたっていないが、災害時には地域からの避難を受け入れることを表明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎日の食事摂取量、水分摂取量が記録に残されている。献立のカロリー値と栄養バランスについても点検し、記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の開き戸を開けると、上ったところに立派な屏風と大きな壺に花を生けている。1階、2階、3階とも同じつくりになっており、廊下の片側に1階と2階は居室、3階はスタッフ室が並んでいる。突き当たりはトイレである。壁には行事の際の利用者の写真を貼っている。2階にある食堂兼台所は狭いが暖かい雰囲気である。壁に利用者がお正月に書いた抱負が貼ってある。職員が大きな樹を書き、桜、紅葉、雪等、季節にあわせてレイアウトしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には低床のベッドと洋服ダンスが備え付けられている。椅子、机、整理ダンスなど、利用者が使い慣れた家具を持ち込んでいる。仏壇に亡妻の写真を飾り、毎日水とお佛飯をあげている利用者もいる。壁には時計をかけ、自分が塗り絵でつくったカレンダーや自分が元気なときの写真を飾っている。息子、孫、ひ孫など、一族の集合写真はほほえましい。		